

無観客の競馬場に響く生ファンファーレ いつの時代もファンとレースをつなぐ その魅力とは

大井競馬場「東京シティ競馬(TCK)」では1989年からファンファーレの生演奏を始め、2011年には女性5人から成る「東京トゥインクルファンファーレ」が結成された。レースの始まりを告げ、期待感と高揚感を最大にするファンファーレ。その演奏を担いトランペットを担当するレイチェルさん、吉田梨紗さん、荻原和音さんの3人と、テレビ東京「ウイニング競馬」中継でもおなじみのアナウンサー矢野吉彦さんが語り合った。ファンファーレの意義や歴史、ファンファーレに込められた思いとは――。

ルーツはアメリカの郵便馬車 ゲートインの演奏は日本だけ

矢野 競馬のファンファーレのルーツは、郵便馬車の出発と到着を知らせる「コーチホーン」なんですって。

19世紀、アメリカの競馬場で馬が集まったことを知らせるために「コールトゥザポスト」という曲を吹いたのが、ファンファーレの始まりと伝えられています。

今、アメリカの競馬場でファンファーレが演奏されるのは、馬が本馬場に出ていくとき。それも、すべての競馬場で鳴らされるわけではありません。ゲートインのタイミングでファンファーレを演奏しているのは日本だけです。

日本では、その昔、日本短波放送(現ラジオNIKKEI)の競馬中継が「今からレースが始まります」と知らせるため、短い音楽を流し始めました。それが日本中央競馬会(JRA)に認められて、スタートの合図として使われるようになったんです。

レイチェル 戦国時代、合戦前に「行くぞー」というときに吹いたほら貝みたいですね。日本人にはそんなDNAがありそうな気がします。

矢野 日本で以前使われていたファンファーレは、もともとアメリカの軍隊が起床や集合、旗の上げ下げの時に、その合図として鳴らしていたものでした。それをうまく競馬に取り入れたのは、一つのアイディア。「さあ、レースだ」と、皆が盛り上がるきっかけになっているのですから。

独バーデンバーデンと福島 温泉地つながりで同じ曲

矢野 ファンファーレにはエンターテインメントの要素もありますよね。

大井競馬場と友好交流提携を結んでいるアメリカ・カリフォルニア州のサンタアニタ競馬場には、トランペットの名物おじさんがいます。

レースの合間に観客席をまわり、誕生日のお客さんを見つけると誕生日の歌を演奏するなどして親しまれているんです。

そうそう、以前、ドイツのバーデンバーデンの競馬場に行ったら、福島競馬場で使われているファンファーレが聞こえてきたんです。バーデンバーデンは有名な温泉

地。同じように周りに温泉がいくつもある福島競馬場と姉妹提携していて、その縁で福島のファンファーレを流してみたいです。

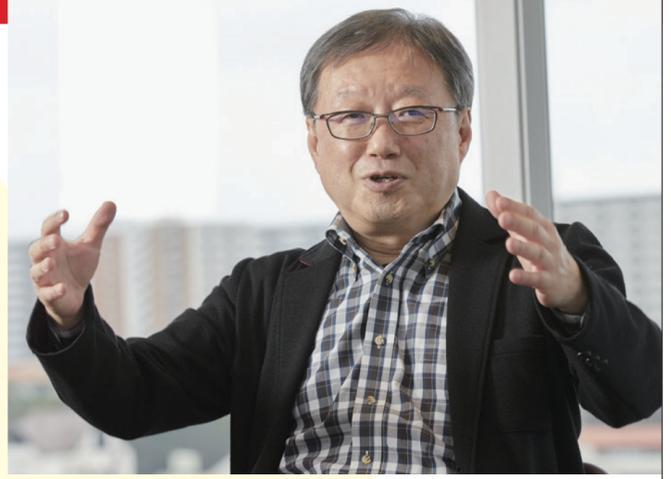
荻原 興味深いですね。エンターテインメントはコロナ禍のようなときには、真っ先に削られてしまうものかと思っていたのですが、TCKはファンファーレをいち早く復活してくれた。すごくありがたかったです。

無観客で実感した ファンファーレの存在感

矢野 競馬にファンファーレは欠かせないし、TCKの生ファンファーレは定着していますよね。無観客で誰もいないスタンドに向かって演奏するとき、どんなことを考えますか。

荻原 コロナ以前は、大きいレースのときは何万もの観客がいてざわついているのに、ファンファーレが鳴ると急に「しーん」となる。そして最後の音が終わった瞬間に「うわー」という歓声が上がると、何回、体験しても鳥肌が立ちます。ところが、無観

矢野吉彦さん：テレビ東京「ウイニング競馬」中継アナウンサー



客で人がいないと音の響き方も違うので、とても奇妙に感じました。吹き終えた後の反応もありません、手を振ることもなく退場するのも寂しいですね。

吉田 でも、SNSなどでファンの皆さんの励ましの声などが伝わってきました。すごくうれしかったです。

レイチェル 「映像で見たよ」という声など、画面越しの応援にも励まされました。同時にTCKの中でのファンファーレの存在感を強く感じました。

馬の名前もファンファーレも シンプル・イズ・ベスト

矢野 日本には、実に多くのファンファーレがあります。中には特別なレースのときだけで、年に数回しか流れない曲もある。皆さんが演奏していく曲って、ありますか？

荻原 TCKの南関重賞で使うファンファーレは、トランペットがとにかく難しい。

吉田 テンポが速く、息も吸いづらい。難しさが凝縮されていて間違いやすいんです。

レイチェル TCKで演奏するときは横一列に並び、私が足で「トントン」と合図してから演奏に入ります。お互いの顔が見えない中、呼吸や音を合わせなければならぬ。そういう状況で難しい曲を演奏するのは、大きなプレッシャーです。

矢野 聞きやすく、演奏しやすく、皆が盛り上がる曲が一番ですね。アナウンサー泣かせの馬名は実況も大変。馬の名前もファンファーレもシンプル・イズ・ベストだと思います。

「勝負の前に勝負する」 プロの音楽家としての責任感

矢野 演奏者として、ファンファーレのどんな点に注目してもらいたいですか。

レイチェル トウインクルレース開催中、毎日ファンファーレの生演奏があるのはTCKだけ。だからこそ、音はもちろん入退場時や楽器を構えるときの角度など、メンバー皆で意識して取り組んでいます。そういった点にも注目いただけると嬉しいです。

吉田 私たちは女性だけのファンファーレ隊です。女性ならではの華やかさや繊細さに加え、男性に負けないくらいの力強さも出していきたい。これからもプロの音楽家として常に妥協せず上を目指します。

荻原 改めて、生演奏はすごく大事、責任重大だと思いました。その分私たちに代わって毎日が開いて、開いている様子が皆さんに伝わるよう頑張ります。

矢野 「勝負の前に勝負している」んですね。そんな思いに応えるためにも、聞く側はちょっと姿勢を正して、ファンファーレの第一声を待つような心構えがあってもいいかもしれません。

日本はレースだけでなく ファンファーレも楽しんでいる国

矢野 ファンファーレは、何か新しいことを始めるときの演出として、リニューアルしたり、新しい曲を作ったりすることがあります。現在のTCKのファンファーレは、トゥインクルレース25周年の節目に誕生した曲です。昨年は、「JBC (Japan Breeding Farms' Cup)」20周年を記念して新しいファンファーレが作られました。お披露目の際ホールで生演奏を聴き、改めてファンファーレの迫力に驚きました。

吉田 競馬場のような屋外で演奏することは珍しいので、最初は心臓が破裂しそうなど緊張しましたが、私たちが心を込めた演奏をすることで、ファンの期待感も高まる。ファンファーレ隊でなければ味わえない経験です。

レイチェル 「東京トゥインクルファンファーレってカッコいいよね」と思ってもらえるように、これからは頑張ります。

矢野 皆さんと話していて、日本はレースだけでなくファンファーレも楽しんでいる国だと改めて感じました。実況のときには、ファンファーレにコメントがかぶらないよう、気をつけなきゃいけませんね(笑)。



写真左から)レイチェルさん、吉田梨紗さん、荻原和音さん：「東京トゥインクルファンファーレ」トランペット担当



TOKYO CITY KEIBA
<https://www.tokyocitykeiba.com/>

広告

企画・制作＝日本経済新聞社
イベント・企画ユニット

TOKYO CITY KEIBA
with Tokyo Twinkle Fanfare

令和2年度もたくさんのご声援
ありがとうございました

始まりのとき。
響け、高らかに。



TWINKLE
RACE 35th
TOKYO CITY KEIBA

令和3年度
トゥインクルレース開幕

4/12月

トゥインクルレースは35周年を迎えます。

ファンファーレ演奏・レース中継はこちらから



日経ARアプリをこの広告内の写真にかざすと、東京トゥインクルファンファーレの演奏をご覧ください。

※この広告ARコンテンツには音声が含まれます。再生される際は、あらかじめご注意ください。

アプリは
右のQRコードから
ダウンロード!

